20-21年度レスポンシブル・ケア　活動報告書

20-21 Responsible Care Activity Report

大内新興化学工業株式会社

OUCHI SHINKO CHEMICAL INDUSTRIAL CO.,LTD

有機ゴム薬品から医原薬・ファインケミカルまで

INDEX

1. 方針 ････3～4
2. 大内新興化学工業㈱の組織と原町工場の製品 ････5
3. 原町工場概要 ････6
4. 災害・事故 ････7
5. 来場・CSR ････8
6. 安全衛生、環境管理体制 ････9
7. BCP ････10
8. 化学物質 ････11
9. 水質汚濁防止 ････12
10. 大気汚染防止 ････13
11. 騒音防止 ････14
12. 悪臭防止 ････15
13. 一般・産業廃棄物削減 ････16
14. 省エネルギー ････17
15. その他原町工場の取組 ････18～22
16. レスポンシブルケアについて ････23
17. ご挨拶 ････24

1.方針

◎経営理念

・優れた品質で信頼される製品を提供する
・適正な利益を得て社業を発展させる
・社業を通じて人々の文化と福祉の向上に貢献する

◎21-22年度　社長方針

基本方針
【震災と災害をバネに強い会社にする】

・健康　新型コロナウイルス感染拡大の中、テレワークをはじめとした対策を推進し、従業員の心身の健康を第一に考える。
・安全　国内外でプラント事故が多発している。現場の世代交代が進む中、安全第一の意識高揚を図る。
・品質　お客様に対し信頼される品質を提供する。

大内新興化学工業株式会社　代表取締役社長　大内　茂正

◎21-22年度　工場長方針

基本方針：「安全、環境、品質」のレベル向上を成し遂げ、みんなで、新しい原町工場を築く。
指　　針：1.生産性と収益性を向上させる。
2.現場、現物、現人を確認し、実行する。
3.双方向のコミュニケーションで情報を共有する。
4.すぐ行動し、改善する。
職場指標：安全で清潔な職場を保ち、自己責任において確認の徹底を行う。

大内新興化学工業株式会社原町工場　取締役工場長　志賀　敏文

1.方針

◎品質保証・環境・安全に対する当社の取り組み（ＨＰ）

·工場、研究所の安全確保及び臭気防止対策を最優先課題として取り組み、年2回定期的に社長を監査チームのトップとして、各事業所の点検を行い、継続的改善に努めています。
·省エネルギー委員会活動、インバータ制御等の省エネルギー機器の導入によりエネルギー低減を図っています。
·生産活動により発生する排水·排ガスは、活性汚泥処理法、燃焼焼却処理及び化学処理等の処理技術を駆使し清浄化を図り、環境保全に努めています。

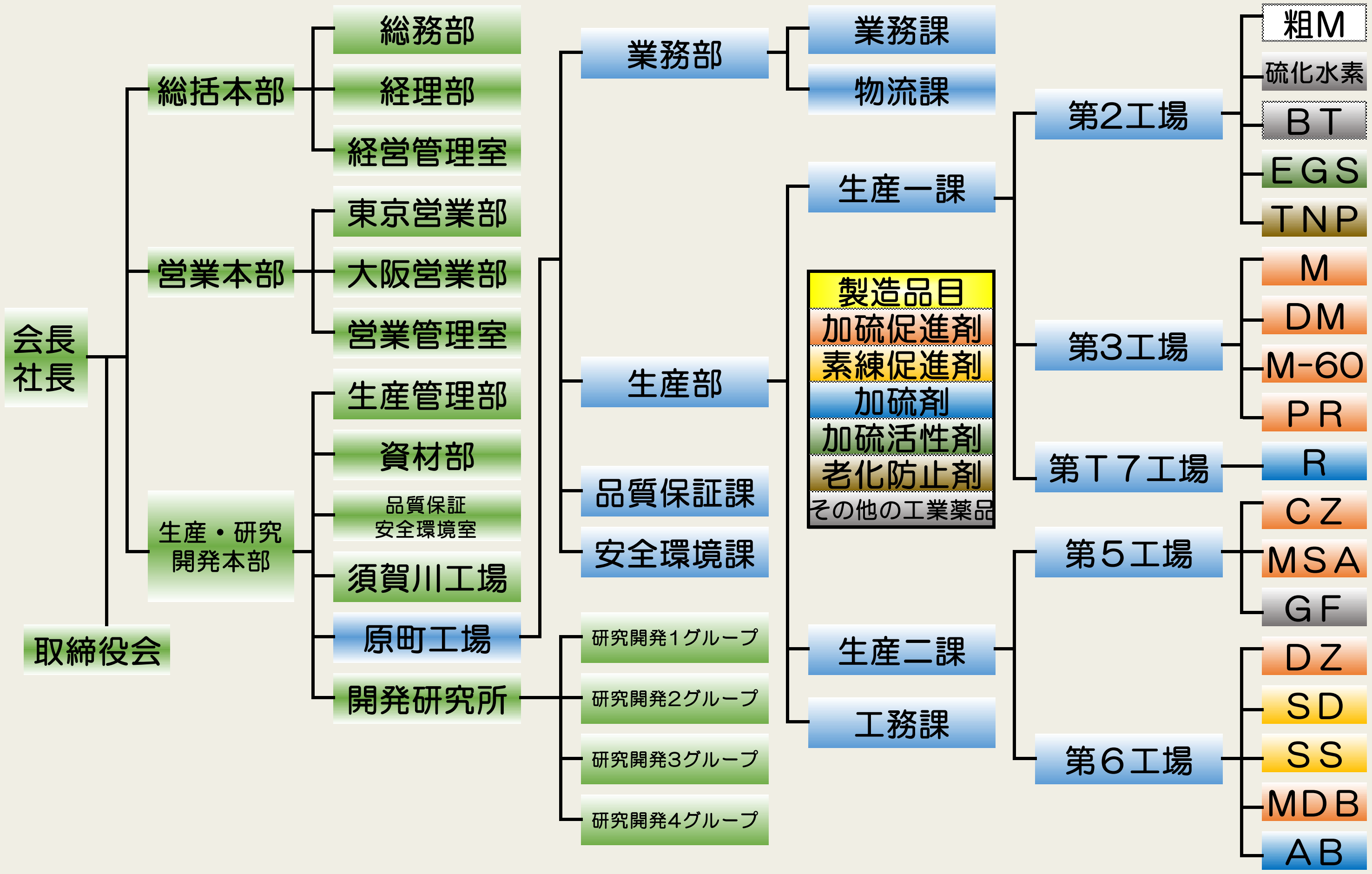
◎品質方針

当工場は有機ゴム薬品を主力製品とする少品種大量生産型工場であるが、当工場を取り巻く社会環境の変化に適切に対応すべく
a)顧客に信頼される品質の製品を安定的に供給します。
b)顧客要求事項や法的要求事項の順守は当然の事として、新たな顧客要求事項や法的要求事項の変化に対し、新技術や新製品の導入に積極的に取り組み、顧客満足の向上を図ります。
さらに効果的な品質マネジメントシステムとするために
c)方針管理の展開により階層毎に品質目標を設定し業務に取り組み、達成度を定期的にレビューし目標達成に努めます。
d)システムまたはプロセスを変更する場合は意図しない変化が生じない様、変更管理を確実に実施します。
e)全員参加により品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善して行きます。
f)品質方針が適切であるか、原則として毎年3月にレビューします。

◎環境方針

当工場は経営基本方針のもと，有機ゴム薬品等の製造を行なっていることを踏まえ，以下の具体的行動指針を策定し，環境活動を積極的に推進いたします。
◆　スローガン　◆
“後世に残そう　美しい海原と緑の環境”
◆　行動指針　◆
(a)当工場は石油関連資源と電気，燃料等のエネルギーを使用しており，又，廃棄物も排出しています。これらを踏まえて，省資源，省エネルギー，廃棄物の削減，リサイクルなど，全員参加で継続的な環境改善と汚染の未然防止に努めます。
(b)環境に係わる法規，規則，他の公的基準の遵守はもとより自主管理基準を設定し維持します。
(c)本方針を達成するために，環境目的及び目標を設定し，計画的に行動します。方針は，変化する状況及び情報に対応し，定期的に見直します。
(d)本方針を全従業員に周知します。又，全従業員がこれを理解し，実践できるよう教育·啓発活動を推進します。
(e)本方針の開示を社外から要求された際は，配付又は公開します。

2.大内新興化学工業㈱の組織と原町工場の製品



本社
〒103-0024　東京都中央区日本橋小舟町7番4号
資本金　1億1,500万円
創　立　1931年（昭和6年）　創業　90年
須賀川工場
〒962-0806　福島県須賀川市下宿前111（開発研究所併設）
関連会社についてはHPおよび会社パンフレットをご覧ください。

チアゾール系有機ゴム薬品を中心とした製品を製造
◆有機ゴム薬品　加硫促進剤・老化防止剤他
◆化成品・工業薬品
◆硫化水素
◆潤滑油安定剤
タイヤを中心としたゴム製品やプラスチックに混ぜ合わせる添加剤を中心に製造しています。

3.原町工場概要（2021年5月31日）

事業所名　大内大新興化学工業株式会社　原町工場
所在地　　福島県南相馬市原町区小浜字狐沢1番地
設　　立　1971年(昭和46年)　　創業50年
従業員数　102名(男性　95名、女性　7名)
敷地面積　102,314㎡
認　　証　ISO14001／2001年(平成13年) ISO9002／1999年(平成11年)
　拡大移行　ISO14001/2015年版:2017(平成29年)　ISO9001/2015年版:2016年(平成28年)
生産量　　製品　6,875t　自工場消費分　19,796t　【合計　26,671t(前年31,144t)】
販売量　　6,758t/年(前年7,369t/年)
売　上　　3,304百万円/年(前年3,304百万円/年)

4.災害・事故

20-21年度につきましても火災・爆発事故はございませんでした。
労災事故等　　　　車輌・交通事故　0件、人身事故0件（休業0件、不休業1件）
　　　　【前年度　車輌・交通事故　1件、人身事故0件（休業0件、不休業1件）】
　通勤災害0件　　　出勤時の交通事故　不注意による対物自損事故
　　　　　　　　　全従業員に安全運転管理者から交通安全を再教育しました。
　環境関連3件　　　全ての異常で外部流出はありませんでした。
　　　　　　　　　東北電力での異常、設備腐食と装置の誤作動により発生した異常でした。
　　　　　　　　　補修と調整を行うとともに老朽設備については計画的な設備更新を行います。

5.CSR・来場

CSR活動

三和化学工業㈱様と合同でクリーン作戦を実施	2020年11月6日、2021年5月1日
近隣行政区の除草作業を実施	2020年7月6日
フォークリフト運転技能講習講師を派遣	年2回程度
ロボットテストフィールド　ドローン試験運用協力	2020年8月26日

来場

排出水調査	3回	排出水に問題はございません。(福島県1回、南相馬市2回)
立入調査	2回	消防署1回、福島県1回(PCB関連)
工場見学	4回	ユーザー0件、学校関係2件、官公庁2件
外部監査	2回	軽度の指摘はありましたが重度の指摘はありませんでした。
内部監査	1回	マネジメントシステム内でブラッシュアップしています。

定期点検・自主測定　各種環境測定年2回及び都度、浄化槽点検年1回、水道水検査月1回

コロナウイルスの影響で各種訪問については中止延期が相次ぎました。

6.安全衛生管理、環境管理体制

21-22年（104期）社長方針
「震災と災害をバネに強い会社にする」
健康
新型コロナウイルス感染拡大の中、テレワークをはじめとした対策を推進し、従業員の心身の健康を第一に考える。
安全
国内外でプラント事故が多発している。現場の世代交代が進む中、安全第一の意識高揚を図る。
品質
お客様に対し信頼される品質を提供する。

産業医	大平　広道（南相馬市立総合病院副院長　医師）
統括安全衛生管理者	志賀　敏文（工場長）
安全管理者	佐藤　丈倫（業務部　部長）
衛生管理者	佐藤　丈倫（業務部　部長）
防火管理者	村岡　洋平（生産部　部長）
危険物保安監督者	猪狩　公治（生産部工務課　課長）
水質関係公害防止管理者	中川　将史（安全環境課　課長）
大気関係公害防止管理者	村岡　洋平（生産部　部長）

・毎月1回安全衛生委員会を開催し月毎の重点項目について実施状況を報告し未達部署には改善指示が出されます。
・安全衛生活動として停電・漏洩・災害・原発事故訓練及び危険予知訓練と安全・防火設備の点検を定期的に実施しています。
・緊急連絡網を構築し緊急事態時に対応しています。
・大震災時の安否確認対策として　ALSOK 安否確認サービスを利用しています。
・南相馬市消防本部と合同の総合防災訓練を年1回実施（11/11実施）

7.BCP

停電・渇水・老朽設備・原料確保・パンデミック・ヒューマンエラーへの事前対応

- 停　　　電 － 非常用発電機の増設
- 渇　　　水 － 南相馬市水道課、ダム管理事務所と工業用水利用者連絡協議会との連携
- 老 朽 設 備 － 計画的設備投資（年度計画と2ヶ月に一回の実施計画を行っています。）
- 原 料 確 保 － 国内外複数社購買
- パンデミック － 休業体制（在庫確保・人員配置・多能化）の構築
- ヒューマンエラー － 自動化を中心に継続した集合単体階層別教育とOJTの充実

8.化学物質

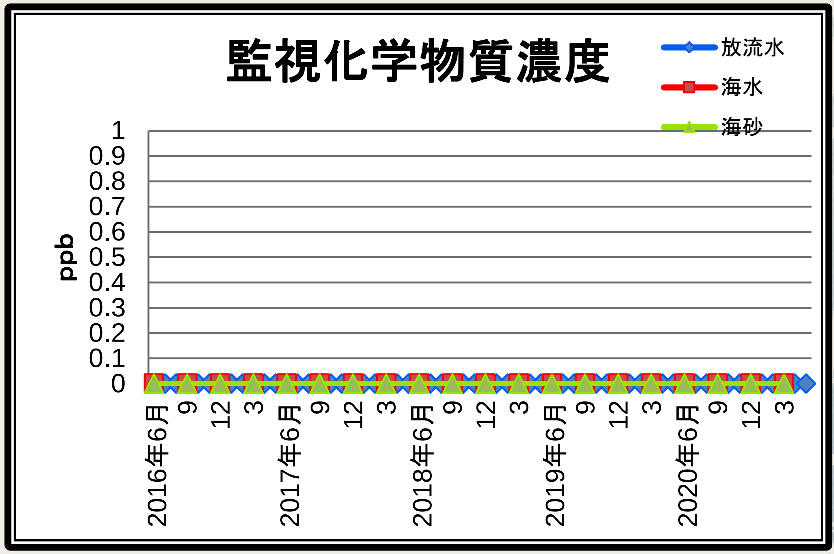
PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律)で化学物質の移動量の管理把握が義務付けられています。

2020年度　届出物質　　15物質

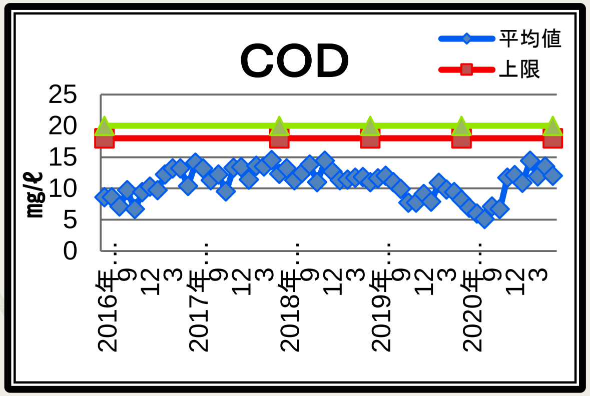
（単位：kg　ダイオキシンを除く）

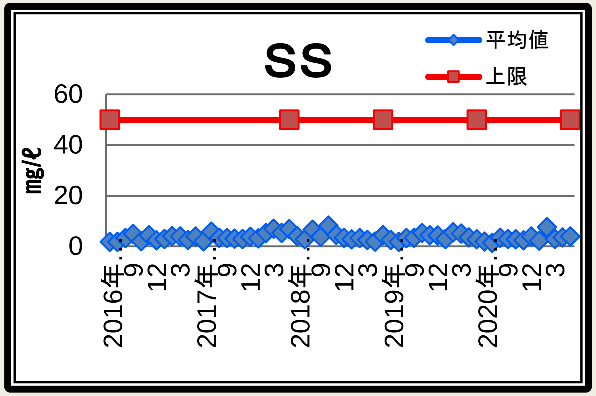
物質名	取扱量	排出量	移動量
アニリン	1,499,127	34	1,142
エチルベンゼン	6,684	220	1,904
キシレン	7,823	220	1,904
シクロヘキシルアミン	356,970	1,516	0
N,N-ジシクロヘキシルアミン	205,970	0	162
N,N-ジシクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	431,059	0	4,015
ダイオキシン類	0	0	0
1,2,4-トリメチルベンゼン	2,796	0	0
二硫化炭素	1,246,789	0.02	0
ピロカテコール	3,204	0	0
ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル	6,225	0.0	0
メチルナフタレン	20,477	110	17
2-メルカプトベンゾアゾール	286,280	0	38,069
2-(モルホリノジチオ)ベンゾチアゾール	65,812	0	77
モルホリン	226,104	0	0

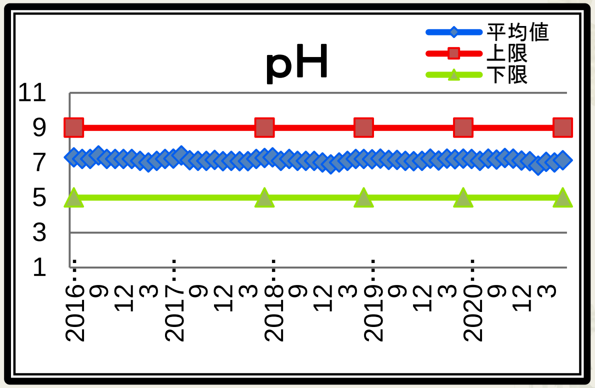
人の健康を損なうおそれ又は動植物の生息・生育に支障を及ぼすおそれがある化学物質による環境の汚染を防止することを目的とする「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」(化審法)によりノクセラーDZ(N,N-ジシクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド)が監視対象物質となっています。製造、排水・廃棄において漏出を防止する為の措置が取られ環境中への漏出を定期調査しています。また、輸送業者へは年1回周知活動を行い、販売先でも同等の管理監視を行っています。



9.水質汚濁防止







工場から発生した排水は廃水処理を経て公共用水域へ排出しています。水質は定期的な分析、測定監視を行い厳しい自主規制値を設け、法令及び公害防止協定の規制値を順守しています

用語の説明

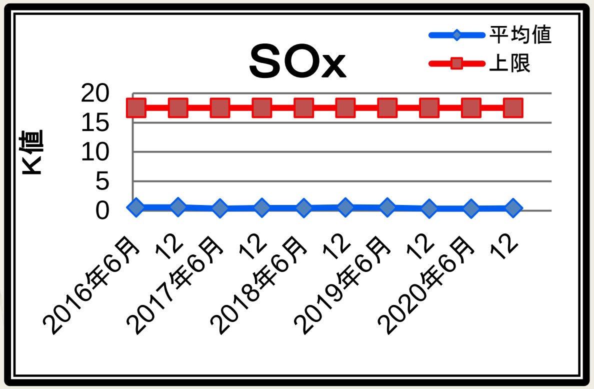
COD　CODの値が大きいほど水中の有機物が多いことを示し、水質汚濁の程度も大きくなる傾向がある。

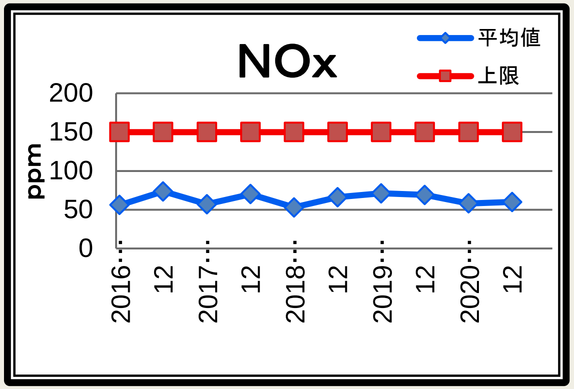
pH　pH7.0が中性でこれより低いほうが酸性、高い方がアルカリ性となります。

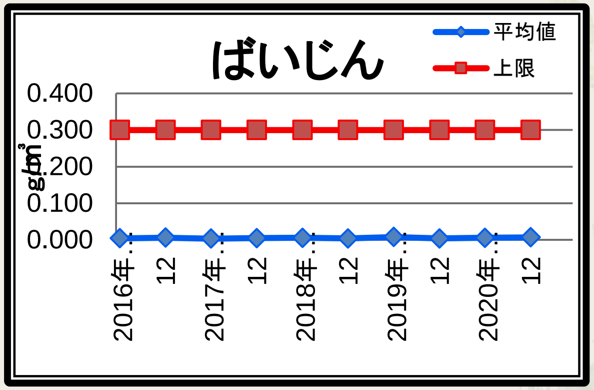
SS　浮遊物質(水中を浮遊している物質)または懸濁物質(濁りの原因物質)という。水を濁している不溶性の物質で、この値が高いほど、水の濁りが高いことになる。

※場内トイレについては一部浄化槽を除いて廃水処理場に放流され再処理されています。業者(相双衛生センター)により浄化槽法上の清掃・点検を定期に行っています。

10.大気汚染防止







当社ではボイラーと廃液燃焼設備の計6基が大気汚染防止法規制対象設備となっています。排気ガスを洗浄する為ガスフィルターを設置し、24時間連続監視によって規制基準をクリアしています。

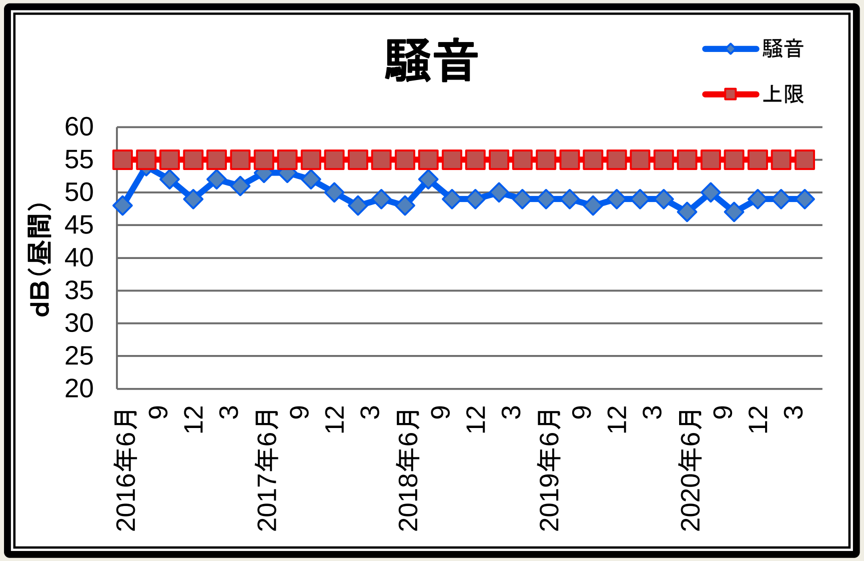
用語の説明

SOx　大気汚染の原因物質であり、硫黄酸化物（亜硫酸ガス等）などの略称。

NOx　窒素酸化物は硫黄酸化物とならび酸性雨（酸性降下物）粒子状物質の原因物質

ばいじん　物が燃えた際に発生・飛散する微細な物質のことを指します。

11.騒音防止



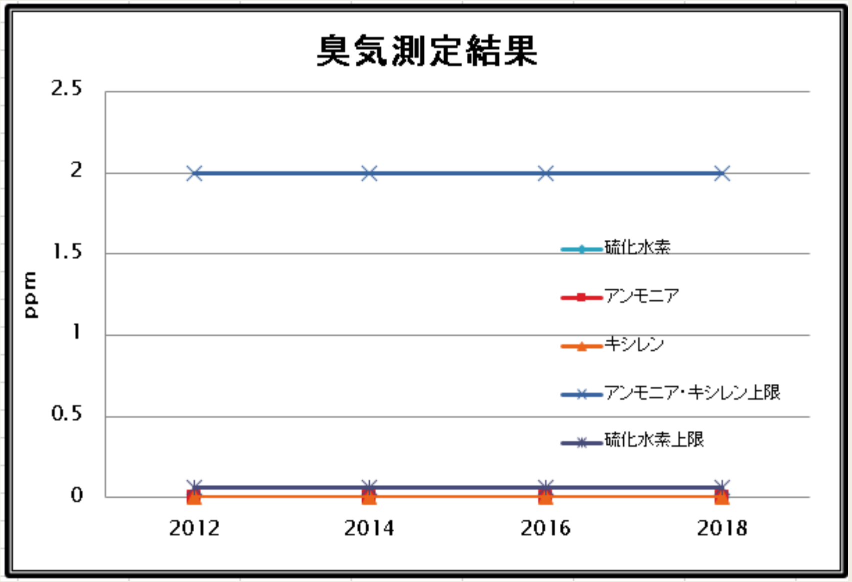
当工場では多数の大型モーターや粉砕機等、騒音・振動発生機器が有ります。
これらの設備は騒音、振動値の少ない機器を選定し、専用建屋内で運転しています。
振動規制法については対象区域外の為、未測定ですが異常があった場合は社内で適宜対応しています。

福島県生活環境の保全等に関する条例による規制
第3種区域(工業地域及びこれに相当する地域)

昼(7:00～19:00)	60デシベル以下
朝(6:00～7:00)夕(19:00～22:00)	55デシベル以下
夜(22:00～6:00)	50デシベル以下

従業員の健康上も良くないことから、年1回設備付近で測定を行い抜本的な改善として設備投資も検討しながら応急対策として保護具の着用を徹底しています。

12.悪臭防止

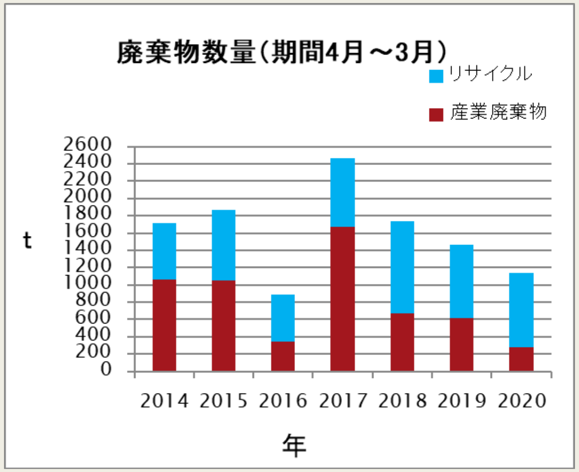


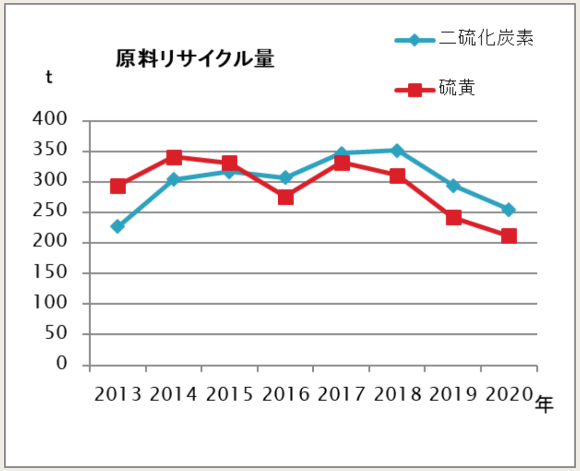
悪臭防止法の特定悪臭物質としてアンモニア、硫化水素、キシレンを取り扱っており、設備・工程の密閉化、スクラバー(排ガスの洗浄)、漏えい警報設備等で外部への流出を防止しています。

測定点:工場敷地境界(1回/2年)

規制物質以外の臭気についても発生の減少・対策の実施並びにモニタリングを実施しています。
万が一臭気を感じた場合は社内関係部署へ通報し対応する事としています。

13.一般・産業廃棄物の削減





産業廃棄物

レジン	・埋立（福島市飯坂町地内他）
廃プラスチック（代替燃料不可品）	・埋立（いわき市遠野町地内）焼却（南相馬市）
製品・半製品等	・焼却（宮城県岩沼市下野郷地内他）
一般廃棄物	・南相馬市クリーン原町センター

リサイクル物

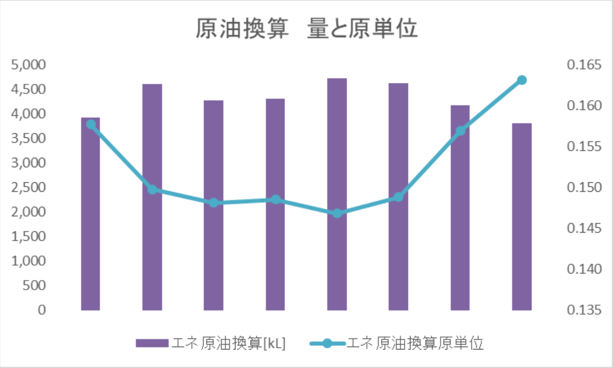
フェントン汚泥	・焼成・セメント原料 ・還元煤焼・製鉄原料
廃プラスチック	・ＲＰＦ化（固形燃料）（宮城県亘理郡山元町）
廃油	・代替燃料
廃金属	・売却によるリサイクル
木くず・廃パレット	・代替燃料（南相馬市）
紙・ダンボール	・古紙再生（南相馬市）

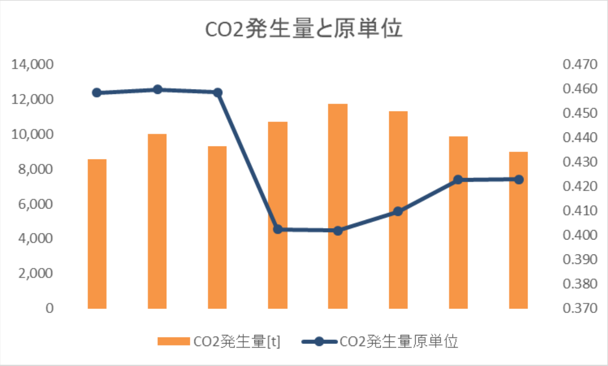
当社では生産活動に伴い多量の産業廃棄物が発生します。生産活動で使用した原料（二硫化炭素や硫黄）の回収再利用や汚泥発生を抑える研究開発を行っています。
また、外部へ委託した産業廃棄物はリサイクル可能な委託先を選定し最終処分量の削減を行っています。2019年度の全廃棄物数量1,467tのうちリサイクル実績は853トン/年で58.1%となりました。（有価物売却を除く）

特別管理産業廃棄物管理責任者　　　　　中川　将史（安全環境課課長）

用語の説明
レジン　　　　　樹脂状廃棄物【産業廃棄物（埋立）】
フェントン汚泥　無機汚泥（リサイクル物）
水銀使用製品産業廃棄物　平成29年10月から水銀含有の蛍光灯・電池を許可業者で処理
特別管理産業廃棄物　爆発性、毒性、感染性その他人の健康又は生活環境に係る被害を生ずるおそれがある性状を有する廃棄物　　　　当社該当物質　：　低濃度PCB（処分場：秋田市）

14.省エネルギー





主要なエネルギーは重油と電力です。
特徴としては製品製造工程で多くの蒸気を使用するため当工場はA重油の使用量が大変多くなっています。

A重油使用量　2,143,154ℓ/年（前年　2,359,921 ℓ/年）
電気使用量　6,544,404kwh/年（前年7,170,537kwh/年）

場内でエネルギー管理委員会を開催し省エネルギーの実績報告と工場建物内の照明のLED化や太陽光発電の利用（厚生会館照明・エアコン、廃水処理場の一部施設）、排温水の熱利用、省エネタイプ設備への更新、インバーター装置や省エネベルト等を積極的に提案し導入を進めています。

工場製造品目

NOC
ゴム加硫促進剤
ノクセラーCZ-G
LOT NO. 702047
NET 20kg
大内新興化学工業株式会社

大内新興化学工業(株)
NO. 1373
[redacted]
品名 ノクセラーCZ-G
コードNO.
バッグ重量 4.4kg

ノクセラー
NOCCELER
M-P
(2-Mercaptobenzothiazole)
ノクセラー
NOCCELER
DM-P
(Dibenzothiazyl disulfide)
ノクセラー
NOCCELER

福利厚生施設（ロッカー室、浴室、集会場、医務室）

福利厚生施設（休憩室、喫煙所、洗濯乾燥室）

2021年選択的福利厚生制度の導入
- 付加健診、二次健診の補助
- 施設利用補助

2018、2020健康経営事業所認定

サークル活動（テニス部、野球部、ゴルフ部、釣り同好会）

レスポンシブル・ケアとは
化学工業界では、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開開から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動を展開しています。

・ユーザー
・福島県
・南相馬市
・小浜行政区
・雫行政区

レポートの作成
　本レポートは大内新興化学工業株式会社原町工場において報告された資料・内容を基に年度毎に作成することとし、このレポート作成後に発生した重要事項については、その都度別途資料を追加して報告することと致します。
　作成にあたっては環境省の「環境報告ガイドライン　2012年度版」を参考としています。
　CSR（企業の社会的責任）については現在震災の復旧・復興を最優先としているため、地域貢献という意味では活動を行っていませんが地域に根ざした企業として積極的に近隣の方の採用と情報交換を行っています。
　2017年6月からBCM・BCP（事業継続計画）活動を開始しました。当社は、通常の事業継続が困難な緊急事態に遭遇しても取引先との契約を守り信頼関係を維持することに努め、従業員とその家族の安全と生活を守り、地域社会に貢献するという強い意欲を持って取り組んでいくことを表明し、その遂行のために本BCP（事業継続計画）を策定し行動する。
対象とする範囲　大内新興化学工業株式会社原町工場の安全・品質・環境・廃棄物等に係る件
対象とする期間　2020年6月1日から2021年5月31日

2021年6月
作成者：大内新興化学工業株式会社原町工場　業務部長　佐藤丈倫

豊かな未来に感動は無限大にある

Active Tomorrow

代表取締役社長 大内茂正

当社は1931年(昭和6年)にゴム添加剤の初の国産化を実現して以来、有機ゴム薬品分野での技術力をベースに抗菌剤、環境薬剤、医薬品原薬などのファインケミカルの各分野に独自の地歩を築き80年の歴史を歩んで参りました。 これもひとえに皆様方の厚きご支援の賜物であり、関係団体、特にゴム工業会の皆様方には永きにわたるご指導、ご支援を頂き、改めてありがたく感謝いたします。 当社はISO 9001に基づく品質保証システムにより、優れた品質で信頼される製品を提供し続けることを目指すとともに、医薬品分野でも原薬GMPに対応した製造管理、品質管理システムを構築して参りました。また、3S(整理・整頓・清掃)と安全・環境面の地道な自主点検により、工場と地域の環境改善を図って参りましたが、今後も更なる信頼を頂けるよう品質保証面だけではなく、ISO 14001に基づく安全・環境重視の体制のもと、環境との調和を目指し、危機管理、防災対策等も積極的に推進して参ります。 東日本大震災は当社にとっても従業員にとっても大変大きな影響がありました。完全な復興にはまだまだ時間が必要と思いますが「がんばろう 日本」「がんばろう ふくしま」を当社全社員の共通意識として連帯を強め、復興に向けて一歩一歩前進して参ります。

今後ともより一層のご指導とご鞭撻のほどお願いいたします。